

～ 2019 年の始まり ～

順天堂大学医学部 病理・腫瘍学 教授
 順天堂大学国際教養学部 教授
 一般社団法人 がん哲学外来 理事長
 「明日を考える会 ～次世代の社会貢献～」
 会長 樋野興夫



2018 年も終わり、いよいよ、2019 年の始まりである。年末、年始は、娘・孫の住むアメリカのボストンに赴いた。

行きの飛行機の中では、映画『ザ・プレデター The Predator』、『LBJ ケネディの意志を継いだ男』を観た。

義理の息子が、空港に迎えに来てくれた。一足先にボストンに到着していた wife と息子、ミシガンに住む娘・孫、また、娘の友人夫妻も集まり、大変楽しい時を過ごした。早朝、気温マイナス4度の公園を、皆で、ゆっくりと散歩した。

3 匹の馬にも出会った。今回も、忘れ得ぬ 貴重な人生の思い出のボストンの訪問となった。

2018 年の出版は、『われ 21 世紀の 新渡戸 とならん 新訂版』（イーグレープ 発行）、『生きる力を引き出す 寄り添い方』（青春出版社 発行）、『楕円形のころ～がん哲学エッセンス～』（春秋社 発行）となった（添付）。

驚きである。涙無くして語れない！

本当に感謝である。時代的に「大局観、長期的視野、教養」の必要性を感じる 今日この頃である。まさに「不滅の魂には、同じように 不滅の行いが必要である」（トルストイ）を 痛感する日々でもある。



「がん哲学外来との出会い」

藤原琢哉

8 年前の健康診断で異常が見つかる。大きな病院での検査を勧められる。言われた診断は甲状腺がん。すぐに手術。そして声を失った。

それからは人と接することが嫌になり、内に籠もっていった。声も出てきた 3 年後、体調不良で病院へ。言われた診断は悪性リンパ腫。抗がん剤治療をし、髪の毛を失う。

そんな時出会ったのが悪性リンパ腫の患者会ネクサスだった。心細い毎日に光が灯るようで同じ仲間

がこんなにいるんだ、と嬉しかった。一人じゃないんだ。仲間がいるんだ。

でも血液がんの特化したネクサス。私は甲状腺がんもっている。そんな不安な気持ちを、誰かと分かち合いたい。そう思っている時、樋野先生の、病気になるっても病人にならない。という言葉に出会った。そして嬉しかった。気持ちをぶつける仲間がこんなにもいる。気持ちが満たされる気がした。がん哲学外来に感謝！

明日を
考える
ヒント

大事な秘密を教えてあげよう。とても簡単なことさ。それはね、ものごとはハートで見なくちゃいけない、っていうことなんだ。大切なことは、目に見えないからね。（A・サン＝テグジュペリ 『星の王子さま』）